



第24号

発行人 秋田県立本荘高等学校東京同窓会長 佐藤源一

題字 後藤竹清

現在の本荘高校について

秋田県立本荘高等学校 校長 高橋雄一



本荘高校東京同窓会会員の皆様には平素よりの本校教育活動に対しての多大なる御理解と御協力に感謝申し上げます。私は本校第78期卒業生として令和5年4月に母校に赴任しました。今年度が2年目の勤務です。本荘高校東京同窓会報第24号の発行に際し、現在の本荘高校の近況をお知らせいたします。

本校は今年度全日制課程1・2年目、定時制課程76年目を迎えております。生徒数は全日制課程589名、定時制課程28名です。全日制課程のクラス数は1学年6クラスであり、私が高校生だったときの8クラスから2クラスほど減っています。6

クラスとも普通科で以前にあった商業科は今はありません。この生徒数の減少傾向は今後も続くことが確実となっています。ただし、運動部は15部、文化部は10部あり、生徒は毎日勉学に部活に真摯に取り組んでおり、活気ある学校生活を見ることが出来ます。

昨年度の新型コロナウイルスの5類への以降後、教育活動はほぼ以前の状態に戻っています。4月の団歌練習は体育館で生徒が大きな声を出しながら行われました。運動会でも一般の観客を入れた状態で行われ大変盛り上がりしました。6月の玲瓏祭も同様に一般のお客さんを迎え入れ大変盛況でした。クラス対抗(8月)・ボート教室(9月)も予定通り実施する予定です。ちなみに、ボート教室(1年のみ)は私の時代は全クラス参加のクラス対抗ボート大会でした。

また、そのときにあった競歩大会とクラス対抗柔剣道大会は今も行われていません。さて、本校の校標の一つである右文尚武は勉学と部活動の両方に真摯に取り組むことを意味する本校生の校是です。この実践により昨年度は端艇部、柔道部がインターハイに出場し、放送部と囲碁が全国高総文祭に出場しました。今年度は端艇部、柔道部、ヨット部、硬式テニスですでにインターハイ出場を決めています。また勉学においては、昨年度の卒業生199名の内108名が国立大に進学しています。生徒が毎日部活動に勉学に励む学校であることは私が高校生であったときと何ら変わりありません。

定時制課程では通常生徒は4年で卒業しますが、3年で卒業するコースもあり、毎年3年生の半数は3年で卒業しています。また、ソーシヤルスキルの向上を目指したプログラムを実施し、生徒が卒業後も円滑に職場に溶け込めるように教育活動を実践し、昨年度は卒業生が全員進路を決定しています。本荘高校の教育目標は「将来の社会を担う人材となるべく、人格の完成と心理の探究に努める心身ともに健全な生徒を育成する」です。校標は右文尚武の

本荘高校の部活動

本荘高校特別活動部主任 中村 淳 (83期) 同窓会事務局担当

東京同窓会の皆様には、毎年日本武道館で開催される全国高等学校柔道選手権大会に、たくさんの応援をいただき心より御礼申し上げます。さて、本校同窓会事務局より、令和六年度の部活動の状況についてお知らせいたします。

秋田県高等学校総合体育大会では、端艇部と柔道部、また、部活動ではありませんが、硬式テニスが活躍し、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)出場を決めております。そして、東北高専学校選手権大会ではヨット部も活躍し、全国大会に出場します。



男女端艇とヨット (母校提供)

令和六年度インターハイの大会愛称は「ありがとうを強きに変えて 北部九州総体2024」、スローガンは「駆け上げられ夢の舞台へ、燃え上がれ若人の魂」。他に、質実剛健・玲瓏同気があります。生徒は毎日仲間と切磋琢磨しながら学力の向上と人格の完成を目指しています。これからも本校の教育活動に対する御支援をお願いいたします。

本校の活躍が秋田を離れて生活している同窓生の皆様にも喜んでもらえるように、部活動を充実させていきたいと考えておりますので、今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。【内容は6月21日現在】

コロナ禍を乗り越えて

東京同窓会会長 佐藤源一(60期)



東京同窓会会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は同窓会活動にご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。コロナ感染症が猛威をふるった数年間、すべての社会活動が停止に追い込まれました。同窓会活動も例にもれず「開店休業」の状態が続きました。

このような状況の中ではありますが、母校本荘高校は創立百二十周年を迎えました。この間三万人を超える卒業生を世に送り出しています。令和四年十月八日、記念式典、記念講演が由利本荘市文化交流館カターレで開催されました。記念講演では、筑波大学教授の大須賀健氏(おおすがけん 本校第八十七期生)による「最新のブラックホール天文学」のお話を頂戴しました。

昨年になってようやくコロナ禍も収まりつつあり、多くの団体活動が再開しつつあります。当会も昨春秋、四年ぶりとなる総会(第五十七回)開催ができて再出発をはたしました。従来からの親睦行事も寄席落語鑑賞会(落語を聞く会 六月)、プロ野球観戦会(巨人対阪神戦の野球を見る会 七月)、秋場所十四日目大相撲観戦会(秋場所十四日目の大相撲を自宅で見る会 九月)などが計画(一部実施)されています。当会の伝統ある活動であり、会員相互の親睦を深める場として、より幅広い会員の皆様の参加を期待いたします。なお、当会の活動状況は随時ホームページに掲載されますので、ぜひご覧いただきたいと思えます。(「本荘高校東京同窓会」で検索)

さて、社会状況の進展とともに、従来からの様々な活動に対し新しい視点からの見直しが行われているように感じます。当会も再建出発してから五十年以上を経過し、また母校同窓会も百二十年の歴史を刻もうとして

いる今日、少子高齢化として一つ特徴づけられる日本の社会状況は学生生活にも大きな影響が出ているようです。最も深刻なのが学生数の減少で、昨年、高橋校長先生が当会の総会にご出席いただいた時に配布された資料によりまずと、最近の母校卒業生の数は、令和五年・二百三十一人、令和四年・二百三十四人、令和三年・二百三十七人となつています。私が卒業した昭和四十年当時に比較すると大幅な減少です。この事は即同窓会の新入会員数の減少につながります。近年発行された同窓会名簿より首都圏在住の会員が大きく減少していることが分かりました。これらの事実は今後の同窓会活動に多大な影響を与えるものと思われ、留意していかねければいけないと思えます。

当会ではより幅広い会員の皆様に実行委員会や行事などに参加いただき、交流の機会を提供すべく努めてまいりました。近年は、様々な活動に毎年新しい会員が参加する状況が見られます。本当にうれしいことです。

コロナ禍で強制させられた自由な生活で一層進展したと思われる都会生活でのコミュニケーション不足や孤立化などが社会問題化しつつある中で、同窓会

の活動がそのような問題への対応の一つの助けになるようでしたらこの上ない成果であると考えます。多少出過ぎたことを申し上げたかもしませんが、そういうところにも同窓会活動の一つの意義があるのではないだろうか、と最近考えています。いずれにしてもコロナ禍を乗り越え、新しい出発を迎えるに

4年ぶりに開催

第57回本荘高校東京同窓会総会・懇親会

事務局長 湯田友夫(65期)

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年2月1日開催の令和2年度第2回役員会から同窓会活動は休止状態になりました。令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の位置づけが「新型インフルエンザ等感染症(2類相当)」から「5類」に変更となり、周辺では秋高連総会・フェスタ、各ふるさと会、各高校同窓会の開催が計画されていました。そこで、当会も役員会では対面式ではなくメールなどで連絡し、4年ぶりに第57回総会・懇親会を開催することとし、事務局が中心となって総会・懇親会の内容について検討し、総会・懇親会の案内等を作成しました。令和5年9月

あたり、今後の同窓会活動に対し多くの皆さんのご意見を反映させ、元気の出る楽しい活動をつづけ、盛り上げていきたいものと考えています。

同窓会活動に対して会員の皆様のさらなるご協力をお願いし、最後になりますが、会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。

であると思える」との会計監査報告がありました。続いて「令和6年度事業計画ならびに予算案」の報告がなされました。全ての報告とも異議なく承認されました。

総会に続いて、挨拶を兼ねて、村岡兼幸同窓会長より同窓会の近況報告、高橋雄一校長より母校の近況報告がありました。

懇親会は、佐藤源一会長の挨拶、来賓の紹介、乾杯となり、会食及び懇談に移りました。その中では、初参加者の自己紹介、カラオケ、校歌斉唱、三本締めがあり、安井賢光副会長の閉会のことばで終わりました。4年ぶりの開催ということもあり、参加人数は50名とコロナ禍前の参加者数よりは少なくなりましたが、和気あいあいと楽しく過ごすことが出来たと思えます。



校歌斉唱の音頭

私の田舎・由利本荘市道川

小野 ひさし (65期)



間違いなく、昔は本を読むことのない少年だった。

生まれ育った秋田の片田舎は、日本海に接し、長い砂浜の続く海岸、平地部分を耕した田んぼと、海拔100mにも満たない広葉樹林の広がる丘陵地に囲まれたところにある。国道7号線と羽越線が並行して海岸線を、新潟方面に走り抜ける地域である。高速道路が通るようになったのも、新幹線が走るようになったのも、私が高校を卒業してから相当な時間が経過したあたりのように思っている。

小学生の頃から、海から吹付ける吹雪のなか、海拔100mに存する権塩塚(ごんげんさま)に初詣でに出かけることをずっと続けてきた。そのあたりでは、雪ある時は橇(そり)やスキーで滑って遊び、春には田んぼの脇にある用水池や小川に入り鮒

やウグイを釣って遊んだ。夏になれば砂浜海岸でハマグリを採り、釣り糸を投げてキスや鱈(かれい)、運が良ければイナダを釣り上げ食卓に乗せた。秋になれば、山ウドウ、桑の実、アケビなど、誰の所有地なのかわからない丘陵地帯を歩き回り、それなりの収穫が得られ得意満面の少年期であった。

特筆に値するのは秋10月のこと。稲刈りが終わり、稲穂を棚に干す頃に海岸で獲れるヒラガニ捕りである。カンテラや空き缶でしるべた蠟燭(ろうそく)入れを持ち、退校後の午後から、遠投する要領で網を投げ入れていくと、子供でも数時間でバケツ一杯に獲れるのである。ヒラガニは大きくはなく、汁物のだし用くらいながら食べると美味しい。

遊び疲れると直ぐに眠くなる。楽しんでやるのが多かったのだから、なかなか本など、ということになっていたのかも知れない。

中学生の頃、我が家の餅つきに防衛高等学校の生徒が遊びに来た。上下を真っ白い制服に包み、玄関に入る前で父母に敬礼するのを見て、「俺は防衛大学校に行く!」と決めた。その頃に、自らの将来を認識するようになり、入学する本荘高校には温水プールがあり、防大入学後の為に水泳部に入ったが、その後、就職が内定したため、受験目的にしていた防衛大学校には進めなかった。



◆◆◆

そろそろ本題へ。

『文藝春秋』平成31年2・3月号の、清武英利氏寄稿の「後列の人」に、林紀幸(はやしのりゆき・元宇宙科学研究所課長)という方の生立ちが述べられている。文中に、故郷の岩城町道川に關係する記事が載せられていた。

林氏の実父である林三男(はやしみつお)は昭和3年の中島飛行機の試作機N-36輸送機試験飛行の墜落事故で亡くなっていく。ちょうど同じ頃、戦後、日本のロケット開発の父と云われた糸川英夫(いとかわひでお)が、東京帝国大学を卒業して中島飛行機に入社していた。糸川は戦時中、97式戦闘機や隼(はやぶさ)の後継機鍾馭(しょうご)の設計にあたっていた。父の死後15年経過し、林紀幸は糸川を頼って中島飛行機を継承した富士精密工業への就職試験を受け、失敗した。

その頃、糸川は千葉にある東京大学生産技術研究所においてロケットの飛翔実験をしていた。直径1・8cm、全長23cm、わずか200gのペンシル型から始め、全長120cmのベビーロケット、カップK型を次々と打ち上げていた頃であり、糸川も人材が欲しかったことから、就職希望の林紀幸を採用した。彼は昭和33年4月、研究所に初任給7500円で入所した。そして18日後には、道川海岸のロケット実験場に、4万5000円で出張させられたという。



私が小学生の頃、道川の海岸には東大研究所なるものがあり、頻繁に打上げ実験が行われていた。打上げ実験の都度、多数の研究者、関係者が出入りするのを目にした。その頃の私達はま

だゴム靴で遊んでいた時代だった。アメリカ軍の家族がオープンカーに乗って村に入ってきた。軍事の監視目的なのに、家族で遠足しているみたい。自動車には同い年ぐらいの金髪少女が同乗していて、そのかわいらしさと美しさに、子供ながら卒倒しそうになるぐらいの刺激を受けた。あの当時にはジョン・ウェイン主演の『史上最大の作戦』という映画が上映されていたが、英語はまったく解らないもの、アメリカ人と恰好が良いと、西洋文化に憧れるようになったのは、この辺りに原因があったのではと思っている。

ペンシル型から50cmぐらいの長さの鋼鉄製のロケットを打ち上げる度に、道川の海岸に東京の文化が入ってきた。生まれ故郷の道川には帝国石油の道川鉱業所があり、戦前から石油の原油が産出されていた。私の父親は、鉱業所に月給6000円で現地採用された従業員であり、併設されていた社宅が私の生家である。帝国石油従業員の福利目的で、組合主催の定期的な映画会もあった。石油積替基地も併設され、従事する国鉄の関係者も多数住んでおり、ド田舎ながらも、東京の文化が直接入り込む特異な田舎であったかもし

れない。

K-16型が高度60km、K-18型が電離層に達し、K-19型が310kmまで打上げられ、人工衛星が手の届くような実験が繰り返されたのだからすごい。一年に45機も打ち上げている中、K-18型10号機、三段ロケットが墜落して爆発炎上した。この世の終わりかと思うほど明るく光り、大きな爆発音が何度も響き渡るという事故であった。

【次ページへ続く】

『文藝春秋』の記事では、開弁した糸川博士の晩年について紹介されている。実験の失敗により昭和42年に東大を辞職し、組織工学研究所を開くも、陸軍時代の戦闘機開発に携わり、特攻機に使用され、防弾の為の背板一枚を組み込めなかったという矜持を碎かれた念に捕われ、心身混濁の時期を過ごした。退官後に、妻子の元を離れ、晩年には長野上田で19歳年下の女性と晩年を過ごし、終の棲家としていた。

糸川の葬儀後、遺骨を巡って遺族との間に争いが起きたという。遺骨の一部を林口ケツト班



本稿所携の3枚の絵は
いずれも筆者の作

長が密かに取分け、鹿児島糸川像の基礎石に埋められたとされている。鹿児島島以前の試験場に選ばれた道川には「日本のロケット発祥の地」と看板一枚のみ建てられているだけ。薄ぼんやりとした記憶の糸に、この記事により関係者による過去の経緯を紹介されたことに感動した。

感動といえは、由利本荘市に埋もれている文化をも一つ紹介する。

市内赤田の大仏様お堂の前に「堀川達三郎(ほりかわたつぎぶどう)美術館」がある。『北の国から』で有名な北海道・美瑛町(ひえいちよう)にある「後藤澄男(ごとうすみお)記念館」に匹敵する、秋田の自然や風景を描いた素晴らしい作品群が掲示されている。

秋田市千秋公園前の県立美術館に比し、どう見ても管理に手薄感があることから、「本高卒業生の皆様、なんとか応援して!」との思いを込めてここに記した次第である。

野球を見る会

巨人・阪神戦

亀山治夫 (57期)



梅雨明け前、アメリカではオー

ルスターでの大谷のホームラン、伝統の巨人対阪神ナイター観戦。小生本年80歳になり、同級生の阿部義康氏とコロナ禍でなかなかお会いできなく5年ぶりのお誘いがあり、冥土の土産と思いついて参加させて頂きました。十何年ぶりにドームに来てびっくりしました。ドームの照明、売店、売りの買物がキャッシュレスに変わって、変わらなかつたのはセコム長嶋の看板。先ずはコップ一杯900円のビール! 巨人の絶好調になつて阪神戦連勝体制、阿部監督の、303日ぶりの4番岡本の左翼、6番坂本の三塁、好調の名城と超攻撃布陣で臨んで、阪神の先取点でしたが、5回表の右翼丸のレーザビームの捕殺、5回裏の岡本の勝ち越し二塁打で4対3とし、大竹をノックアウト。6回

参加者名

女性の芳名
ジャイアンツファンの中、ただ一人阪神ファンの伊豆憲一氏、やけ酒か、お高いビールをよく飲んでいました。

7回終了後のお楽しみ抽選会は、全員当りませんでした。今年のリーグ優勝はどこどのチームが獲るか、混戦ジャイアンツの優勝を期待して阿部氏



東京ドームの観覧席で

部活ダイジェスト①

硬式野球部

第106回全国高校野球選手権
秋田大会
(7月11日、さきがけ八橋球場)
2回戦 本荘5-1秋田
3回戦 本荘7-3秋田北鷹
準々決勝 本荘0-2金足農業

柔道部

令和六年度全国高校総体柔道
第73回全国高校柔道大会
(8月11日、大分・レゾナック武道スポーツセンター)
男子個人73kg級
1回戦 阿部颯大・〇近藤溪龍
僅差 (京都・先端大附)

男子個人81kg級
1回戦 小松脩・〇山本龍之介
合わせ技 (鳥取・倉吉北)

硬式テニス

令和六年度全国高校総体テニス
第114回全国高校テニス選手権会
(8月5日、大分・レゾナックテニスコート)
男子シングルス

1回戦 大泉恒〇・6木村一翔
(岡山・関西)

落語を聞く会に参加して

梶原ひろみ (77期)



令和六年六月十六日(日)に浅草演芸ホールで行われた寄席落語鑑賞会(落語を聞く会)に、同期の三名で初めて参加しました。友人ともコロナ禍を過ぎ、久しぶりの再会でした。

この日は六月の中旬にしては(現代はこれが普通なのかもしれませんが)夏のような暑さで、

加えて浅草は観光客も多く、集合時間の十一時には既に町全体が熱気を帯びていました。とりまどめをしてくださった74期の遠藤様とは面識がありませんでしたが、数人に囲まれてお金のやり取りをしている様子を見て、お声をかけましたところ、案内、遠藤さんでしたが、ドキドキしながら声を掛けた私に、ホッとするような笑顔を見せてくださり、心が和みました。

いよいよ開場となり、席につき会場を見渡すと、おもむろに

お弁当やおにぎりなど、食事をお供えている人が目に入り、寄席は凡そ五時間の長丁場でもあり(昼の部は)お昼を挟むため、演芸ホールとはこういう場所なのだと思わずは洗礼を受けました。私は、遠藤さんからの案内に飲食のことが書かれてありましたので、お弁当を用意するまでは気が引けクッキーを持っていきましたが、そのような気遣いは不要でした。因みに演芸ホールの売店でもお弁当類が売られております。

さて、いよいよ開幕!落語の合間に民謡・漫才・マジック等々が組み込まれ、落語だけだと頭を使い過ぎてちよっと疲れそうなどころ、うまく構成だと納得&感心しました。初めは回りを気にしながら笑っていた私も、気が付けば遠慮なく大笑いしていました。とてもたくさん笑わ

浅草演芸ホールの前で



会食した『荒井屋』



せていただきましたが、笑いとは別に、紙切りの芸に感動しました。即興で客席からのリクエストに応え、お喋りしながら軽く笑わせながらほんの一、二分でしょうか、紙を切りながら形を作る芸は、国の宝だと、大げさでなく心から思いました。出演された落語家さんの中にはテレビで拝見している方も何人かおられ、終わってみればアツという間の五時間でした。

終演後は数年ぶりの再会となった三人で、同窓会へ用意してくださった会食会には参加せず、以前テレビで見えたお店を目指し、グーグルマップを頼りにたぐさんの人を掻き分けながら辿り着き、少しの間、まだ興奮冷めやらぬ寄席の話に盛り上がりました。これまでは浅草演芸ホールに足を運ぶ機会もなく、とても楽しい時間を過ごさせていただきましたこと、準備や連絡等、遠藤様にも大変にお世話になりましたこと等、紙面をお借りしまして感謝申し上げます。ありがとうございました。

グルマップを頼りにたぐさんの人を掻き分けながら辿り着き、少しの間、まだ興奮冷めやらぬ寄席の話に盛り上がりました。これまでは浅草演芸ホールに足を運ぶ機会もなく、とても楽しい時間を過ごさせていただきましたこと、準備や連絡等、遠藤様にも大変にお世話になりましたこと等、紙面をお借りしまして感謝申し上げます。ありがとうございました。

部活ダイジェスト②

端艇部

令和六年度全国高校総体ローイング

- (8月9日)長崎県諫早市・本明川水上競技場)
 - 女子シングルスカル 白井咲羽
 - 準々決勝で敗退
 - 男子シングルスカル 鈴木漣
 - 敗者復活戦で敗退
 - 女子ダブルスカル 小松焯・渡辺妃菜琉
 - 決勝で6位
 - 男子ダブルスカル 佐々木陽・阿部悠翔
 - 敗者復活戦で敗退
 - 女子舵手つきラドルフル 長田凜香・藤澤にし・楠紗季
 - 佐藤夢歌・莊司彩結
 - 敗者復活戦で敗退
 - 男子舵手つきラドルフル 齋藤匠・梶原快星・猪股良都
 - 今野将成・石塚匡道
 - 敗者復活戦で敗退

陸上競技部

第79回東北高校陸上競技大会

- (6月14日)福島市・とうほうみんなのスタジアム)
 - 女子100mハードル 長堀莉子
 - 8位入賞

放送部

第65回秋田県放送コンテスト兼第71回NHK杯全国高校放送コンテスト秋田県会

- (6月5日)大仙市・大曲市民会館(ほか)
 - アナウンス部 ウンターホルドみゆき 伊藤颯太
 - 佐々木宇宙 各入選
 - 朗読部門 中野妃香利 渡辺笑佳 各入選
 - 創作ラジオドラマ部門 『Loading...』『約束』 各入選

吹奏楽部

第66回秋田県吹奏楽コンクール

- (7月26日)秋田市・あきた芸術劇場(ミルハス)
 - 課題曲『メルヘン』(酒井格)
 - 自由曲 交響詩『海』(より)
 - 『風と海との対話』(ドビュッシー)
 - 銀賞

ヨット部

令和六年度全国高校総体ヨット

- 第65回全国高校ヨット選手権会 (8月12日)和歌山市・和歌山セーリングセンター)
 - 女子1LC A6級 藤田依暉
 - 21位

母校柔道部の応援

第45回及び第46回全国高等学校柔道選手権大会

湯田友夫 (65期)



昨年の第45回全国高等学校柔道選手権大会は、入場者数を制限しての有観客という中で、4年ぶりに本荘高校OBと選手関係者で応援に行ってきました。

男子個人戦は66kg級、73kg級、81kg級及び無差別級に出場しました。女子個人戦は48kg級、57kg級及び63kg級に出場しました。個人戦は男女とも出場した選手がそれぞれに持てる力を発揮し、善戦したと思います。

女子団体戦は、熊本県の熊本西高校と対戦しましたが、先鋒は技ありによる優勢勝ち、中堅は合せ技による一本負け、大将は引き分けで惜敗しました。

今年の第46回全国高等学校柔道選手権大会は、男子個人戦の二人、73kg級に阿部颯夫さん、

81kg級に小松脩さんが出場するというところで、3月19日(火)に応援に行きました。佐藤一会长(60期)、伊豆憲一理事(68期)、千葉久柔道部OB(64期)、鈴木克博柔道部OB(75期)と私の5名です。二人とも2回戦からの対戦となりましたが、二人とも持てる力を発揮したと思いますが、残念ながら惜敗しました。

会場は、通常の有観客での試合となり、新型コロナウイルス禍前の活気を取り戻したように感じました。母校の柔道部は、新入部員対象者が中学時代には新型コロナウイルスの影響で練習ができなかったこともあり、男女とも新入部員の入部が少なくなり、来年は個人戦での出場を目指すことになりそうです。

今年は、試合が終わって、千葉久柔道部OBにより、武道館の正門前で、選手、長谷部亮監督と一緒に記念撮影をしました。その後、応援に来ていた5名で神保町付近の中華料理店の個室

東京・日本武道館で

右上は第45回大会、他は第46回大会。左上と右下は母校提供



で残念会(飲み会兼昼食)を行いました。



第58回 本荘高校東京同窓会 総会・懇親会

日時 令和6年10月19日(土)12時~15時

会場 アルカディア市ヶ谷

懇親会費 10,000円(会場費及び料理代等の値上りにより会費の値上げを予定)

連絡先 本荘高校東京同窓会 事務局長 湯田友夫(65期)

諸物価高騰のおりではありますが、多くの皆様の参加をお待ちしております。

QRコードでホームページが見られます。



編集後記

会報第24号をお届けします。久しぶりの編集・割付作業にとまどいながらも、なんとか発行でき、胸をなでおろしています。原稿をお寄せくださった方々、ありがとうございました。

気がつけば、高校を卒業して半世紀です。この間、何がどう変わり、何がそのままか。身の周りでは、そして世界では...そんなことに思いを巡らす機会が増えました。さまざまテーマに目をこらすような心がけていますが、頭は空転してばかりです。せめて朝ぐらいいんやりした空気を、と願っています。

皆様には、どうぞお健やかにご無事。(伊藤由明・69期)